

令和6年度 かほく市立金津小学校 学校評価最終報告書

経営目標		取組内容	主担当	(前期達成状況) 現 状	評価の観点	達成度判断基準		備考	取組状況	達成度(判定)	次年度の方向性 (改善計画等)	学校関係者評価者(学校運営協議 会委員)による意見
1	学力の向上	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、授業改善を図る。	学習指導 (釜井)	(A:90%以上) ・教師主導ではなく、児童主体の授業を目指して学習方法を個人で選択できるようにしていく。	【努力指標】 個に応じた指導や支援を行うために、考えをもつ時間や場を設定して、学び合いにつなげることができる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合、要因を明らかにして、重点の再確認・検討をする。	教員自己評価	・授業の始まりにゴールの姿を児童と共有し、学習方法や道具を選択し、自己決定する機会を増やすようしている。また、個に応じた指導のために、児童の見取りを大切にしている。	1+2 100%	A ・ねらいを明確にもち、教科の見方、考え方を大切にベアやグループ交流を行う。全体交流をする時に、間違いや不十分を生かせるようにしていきたい。	・改善計画通りをお願いしたい。
		個に応じた学力の向上と学び方の習得をめざす。	学習指導 (釜井)	(A:90%以上) ・自分たちのクラスで不十分なところをめあてに設定することで、意識化を図ることができたため、次年度も継続して行っていく。	【成果指標】 5つの項目について、児童は常に意識し、一定の定着率に達している。	「あさはよしを意識して学習に取り組むことができた」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	学期末児童アンケート	・相互参観の時期に合わせて、それぞれのクラスで「あさはよし」のめあてを決めて取り組みを行った。自分たちのレベルアップを目指してめあてを設定し、指導する教員の意識も高い。	1+2 86.4%	B ・今自分たちに足りないところをめあてに設定しているため、児童自身の評価は「できていない」と厳しくなる面もあった。できているところにも目を向けさせていくようにしていきたい。	
		1人1台端末を活用した効果的な学習に努める。	GIGA推進 (北)	(A:年間7回以上) ・今後も月1回程度の研修を行い、効果的な活用方法について共通理解していく。	【努力指標】 考えを交流する場面や学習を深める場面でICTを活用することができる。	ICT活用についての授業実践研修会を A:年間7回以上 B:年間6回以上 C:年間5回以上 D:年間4回以下	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	GIGA校内研修会	・月に1回程度、各クラスで実践発表を行い、効果的な活用方法について共有している。	1+2 100%	A これからは、効果的な活用なのかを検討していく。	
				児童アンケートでは、A(90%以上) ・今後も楽しく活用できるように、全教員で活用の推進をしていく。	【満足度指標】 1人1台端末を使った授業が楽しいと感じている。	楽しいと感じている児童が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	学期末教員・児童アンケート	・教員が積極的に活用を促すことで、全児童抵抗なく、楽しく学習に活用している。高学年を中心に文房具のように、手早く、効果的に活用している。	児童 1+2 100% 教員 100%	A ・今後も楽しく活用できるように、全教員で活用の推進をしていきたい。	
		カリキュラム・マネジメントを推進し、自ら考え行動する力を育成する。	教務 (瀧田)	(A:90%以上) ・3学期の実践も通して児童と教師の評価の不一致が一致するようになってきたかを引き続き見ていく。	【努力指標】 カリキュラム・マネジメントの柱「自ら考え行動する力の育成」を意識して、指導を行っている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:80%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・総合的な学習の時間と生活科だけでなく、算数科や他の教科でも同様に実践していくことができるので、取組範囲が広がった。	1+2 100%	A ・整理・分析の方法を具体化し、児童が使えるようにしていく。	

2	生徒指導の推進	ア	「めあて」や「きまり」に対する自己評価を定期的にを行い、よりよい行動への意識と実践力を高める。	生徒指導 (佐竹)	(A:90%以上) ・生活目標の取り組み方に慣れてきている。学校生活の生活習慣の一部のようになっていってほしいので、継続していく。	【成果指標】 生活目標を意識し、よりよい行動ができるように取り組んでいる。	生活目標のふり返りにおいて、児童肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組項目や方法について再検討する。	生活目標集計表	全児童の意識は高く、生活目標を達成しようとする習慣が身についてきたように思う。今後も継続していきたい。	1+2 95%	A	生活目標の意識は高いので今後も維持できるように日々の声掛けをしていく。振り返りの方法を再度検討していきたい。
					(A:90%以上) ・規則正しい生活に対する意識の継続ができるように声掛けしていく。またメディアとの付き合い方児童に啓発していく。	【成果指標】 セルフチェックを通して、自己のよりよい生活習慣の定着に取り組んでいる。	セルフチェックカードの肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		セルフチェック集計表	身だしなみや生活習慣については、80%以上と定着が見られるが、メディア時間では67%と改善の余地がある。家庭と連携しながら自己啓発に努めていきたい。	1+2 92%	A	メディア時間は課題が見られるので、ルール作りの必要性や保護者の協力を得られるような取り組みを考えていきたい。
		イ	生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自他を大切にする心情を育成する。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・今後も継続していき、より一人一人の頑張りを児童にも保護者にも広めていけるようにしていく。	【努力指標】 よさを認める場の設定や、よさを伝えることに積極的に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、自主的・実践的態度を育成するための手立てについて、再検討、工夫を講じる。	学期末教員自己評価	隔りの会や授業の場面の他に、きらきカードに全校で取り組むなど、よさを認める場づくりがきている。児童の作品やふりかえりカードには肯定的な言葉を入れるなどし、よさを伝えるようにしてきた。	1+2 100%	A	今後も互いのよさを認め合う機会を意図的につくり、児童を褒め、認める言葉がけを続け、温かい雰囲気や学級・学校を目指していく。
					(B:80%以上) ・安心して過ごせる学校をさらに目指して、人の気持ちを考える機会をさらに設けたり、児童に素敵な姿を伝え、広めていく。	【成果指標】 児童は、自分のよさに気づいている。	「自分にはよいところがある」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		学期末児童アンケート	人間関係づくりの土台となるコミュニケーションの方法を学習したり練習したりする機会を設け、安心して過ごせる学級・学校づくりに努めている。コミュニケーションの練習を通して反応が返ってくる喜びを感じているようだ。	1+2 88.1%	B	コミュニケーションの楽しさを感じられるコミュトレを継続し、児童の相互理解やコミュニケーション能力の向上、自己肯定感の向上を図っていく。
		ウ★	いじめ・不登校・問題行動の早期発見に努める。事案に対しては全職員で情報共有を図るとともに、迅速にケース会議を開催し、組織的に対応する。長期の不登校に対しては、保護者も交えてケース会議を実施し、一人一人に応じた支援を継続的に行う。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・未然防止にさらに注力し、児童の困っていることなども発信して、保護者と学校とがさらに協力できるように情報を発信していく。	【努力指標】 個別の支援シートを作成した児童を中心に、全校体制で支援を行うとともに、いじめや問題行動の未然防止に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、体制及び運営について検討する。	学期末教員自己評価	毎月のアンケートでは、「嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと」のどれかを記述してもらい、児童の内面理解に努めた。いじめと認定した場合は迅速な情報共有に努め、全体で加害児童、被害児童を見守り支援を行った。	1+2 100%	A	児童アンケートや担任、SCによる個別面談、相談ボックスの設置を通して、児童の些細な変化も見逃さないように児童理解に努めていく。また、アンケート結果の開示を通して保護者への情報発信をしていく。
		オ	特別支援教育についての理解を深め、だれもが安心して学べる環境を整える。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・個別に最適な学習の進め方や児童主導の授業スタイルにチャレンジしていく。	【努力指標】 学習や生活に生徒指導の視点を生かしている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	学習指導部と連携し、児童主体で、生徒指導の4機能を活かした授業づくりに努めてきた。進んで交流したり発言したりする児童が増え、積極的に行動する児童が増えた。	1+2 100%	A	児童主体とした授業づくりを継続し、全教職員で個別最適な授業づくり、生徒指導の4機能をいかした授業づくりを継続していく。

・改善計画通りをお願いしたい。

3	情操豊かな心の育成	ア	道徳の授業を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。	道徳教育推進教師（山本）	(A:90%以上) ・別業の内容を見なおし、重点目標について意識して指導できるようにしていく。 ・地域とも連携し、ゲストティーチャーを招く機会を設けていく。	【努力指標】 道徳の授業づくりを工夫する。 ア 中心発問の吟味 イ 言語活動の充実 ウ 価値の自覚化 エ 道徳掲示の蓄積	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、道徳の授業展開の再検討を図る。	学期末教員自己評価	・自分の考えをもち、友達と活発に交流している児童が多い。 ・ゲストティーチャーを招聘し、全学年で心のサポート授業を行ったり、道徳だよりを発行して家庭に道徳授業の様子を発信したりした。	1+2 100%	A	・重点目標について行事等と絡めながら、日頃から意識して指導できるようしていく。 ・道徳だよりの発行を継続して行う。	○「金津の森フェスティバル(新)」について ・来年度、「金津の森」を生かした教育活動をさらに推進していくことを計画していく。その一環としてこれまでの「収穫感謝祭」を「金津の森プロジェクト」の活動や総合的な学習に関する学習発表を保護者、地域に発信したり、交流したりする機会にしたい。
		イ	「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験活動、交流活動に取り組み、豊かな感性を養う。	教務（瀧田）	(A:90%以上) ・「金津の森活用計画」を推進し、伝統となるものは伝統化していく。 ・新たに金津の森を発信していく手立てを考え、計画を具体化していく。 ・「金津の森プロジェクト」や1時間の授業だけで完結してしまわずに、その経験から次の活動に結び付け、継続的に講師の方と連携して活動していく。	【成果指標】 「金津の森活用計画」に基づき概ね活動できている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、その要因を明らかにし、金津の森活用計画の内容について再検討する。	学期末教員自己評価	・後期も「金津の森活用計画」を推進していった。高学年の金津の森プロジェクトは下級生の目にも触れるので、いつかは自分たちもできるという期待感を高めていた。 ・3・4年生が新たに金津の森を発信していく手立てを考え、計画を具体化していている。	1+2 100%	A	・3・4年生の「金津の森改善プロジェクト」を来年度につないでいく。	・一日使って行えば、保護者、地域の方も参観しやすいのでは。 ・金津の森プロジェクト実行委員が大変になるかもしれないが、保護者からの協力者も増えるのではないかと。 ・地域の人も参加しやすい活動になればよい。
						【努力指標】 講師等を招き、体験活動の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、体験活動等の取組について、検討、改善を行う。		・来年度は、全学年の教育課程に「金津の森」が組み込まれるようになった。秋に「金津の森フェスティバル」(仮称)も開かれる予定で、全学年が共通して金津の森について学習していくことになった。	1+2 100%	A	・各学年がどんな内容で学習するのか、どんなふうに「金津の森プロジェクト」を開くのかを具体化していく。	・収穫感謝祭では、学校田や学校園の協力者である西東さんへの感謝を表す機会があったが、別にそのような機会を作ってほしい。 ・来年度は特認校4年目となる。金津の森での豊かな学習活動・体験活動を金津小の特色の一つとしていきたい。
4	健康と体力の向上	ア	「体力アップ1校1プラン」をもとに、体育の授業や「風っ子タイム」「のびのびタイム」を通して体力向上の目標達成に努める。	特別活動体力づくり（北）	(A:90%以上) ・今後も教科体育と体育行事を軸にしながら、楽しみながら児童の体力を向上させることができるようにしていく。 ・今後も、風っ子タイムで運動に親しむ機会を設け、運動が楽しいと思える児童を育てていく。	【努力指標】 教科体育において、課題となる運動能力の強化を含め、体力向上に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・教科体育や、体育行事に楽しみながら取り組ませることによって、児童の体力の向上を目指している。	1+2 100%	A	・今後も教科体育と体育行事を軸にしながら、楽しみながら児童の体力を向上させることができるようにしていく。	○体力について ・子どもたちの体力は落ちているのか。 ・苦手はあるても概ね体力はある。(柔軟性がやや低い)
						【満足度指標】 児童は、楽しく進んで運動に取り組んでいる	風っ子タイムに楽しく取り組んでいる児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末児童アンケート 体力アップ1校1プラン実施状況	・学期に2回程度の風っ子タイムを通して、全児童が運動に親しむ機会を設けている。	1+2 96.6%	A	・今後も、風っ子タイムで運動に親しむ機会を設け、運動が楽しいと思える児童を育てていく。	
		イ	健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を図る。	保健安全（田中）	(教員評価A:90%以上) (児童・保護者アンケート A:90%以上) ・今後も継続していく。 ・給食時の姿勢等の声掛けも継続する。 ・健康の秘訣睡眠、食事、運動、排せつの4つを年間通じて指導していく。	【努力指標】 視力をはじめ健康管理等の指導の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・ランチルーム給食時間を利用し、良い姿勢、歯みがき指導の声掛けを実施した。 ・5、6年生に少人数での歯みがき指導を実施した。	1+2 100%	A	・今後も継続していく。 ・給食時の姿勢等の声掛けも継続する。	
						【成果指標】 児童には、健康的で規則正しい生活習慣が定着している。	毎月のセルフチェックの結果及び学期末、児童・保護者アンケートが A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		学期末児童及び保護者アンケート	・2学期の食育講座で栄養教諭と連携し早寝、早起き、朝ご飯について指導した。 ・学校保健委員会で睡眠の大切さについて考える機会を持った。	児童 1+2 96.6% 保護者 1+2 92.1%	A	・健康の秘訣睡眠、食事、運動、排せつの4つを年間通じて指導していく。	

5	家庭や地域から信頼される学校づくりの推進	A	各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。	教頭 (井上) 情報 (北)	(A:90%以上) ・コードモンでは、スマートフォンで見える保護者も多いと思われるため、スマートフォンでも見やすいように写真を多く入れたり、文字の大きさに配慮したりした便りを心掛けていく。 ・今後も計画的に配信や更新を行っていく。また、ホームページの更新も保護者に伝えていく。	【努力・満足度指標】 HPや学校だより等各種たよりで、学校の情報を発信している。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・1ヶ月に1回以上の学校便り、学年便り等をコードモンを利用した配信や活動や行事等のホームページで発信が定着と保護者への周知が定着してきている。	1+2 100%	A	データ配信が基本となるとこまめに確認する保護者となかなか見ない保護者がいることが課題。機会を見て周知を図るようにする。	○学校だよりについて ・運営協議会委員は学校だよりが届けられるので見ているが、地区の方は、あまり見ていないのではないかと。 ・地区の希望や状況に合わせてもよかったのではないかと。 ・地域の年配の方は学校のことは分からないが、回覧板で回しても学校だよりだけの時もあり、それだけを回すのもどうかという意見も聞かれた。 ・メールやHPは特に年配の方はなじみが薄い。
				教頭 (井上)			肯定的な評価をする保護者が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満		学期末保護者アンケート		1+2 100%	A	8月より市内全校学校だよりの地区回覧を行わないことになった。そのことに対する地域の声を聞く必要がある。	
6	多忙化改善と人材育成	A	提案内容や取組内容の精査、会議の効率化・簡略化を図るとともに、最終退校時刻の設定を行う。(毎週水曜日の定時退校の徹底)	教頭 (井上)	(A:90%以上) ・勤務時間管理を意識した働き方を促すことで、業務改善の意識を高めるとともに、教職に対するやりがいを持てるような職場づくりを目指していく。	【成果指標】 業務改善の取組が勤務時間の改善に表れている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・4～11月の時間外勤務は、月1人あたり平均32.8時間(昨年度35.0時間)である。効率と成果を意識した働き方が徐々に表れている。	1+2 100%	A	提案内容を見直し、終礼時やC4thの掲示板を活用することで、会議の効率化をさらに進める。	○その他 この学校評価報告書だけでなく、保護者アンケートや児童アンケートの集計結果も資料としてつけてもらえると別の視点からも評価できる。
		I	PDCAサイクルを意識した提案と達成状況の把握により、責任を持った業務の遂行に努める。	教頭 (井上)	(A:90%以上) ・今後も、全職員の共通理解・共通行動が図られるよう、各担当がわかりやすい提案に努めていく。PDCAについては、特に検証・改善を確実にし、さらによいものにしていく。	【努力指標】 PDCAサイクルを意識して、担当業務を進めている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、指導、改善を行う。	学期末教員自己評価	・学校経営方針に基づき、各担当がPDCAサイクルを意識しながら、責任を持って業務を進めている。	1+2 100%	A	業務が煩雑になったり、必要以上に時間がかかってしまったりすることがないように、検証や改善の重点を絞って取り組むことができるようにする。	